



お元気ですか

平成30年4月

ウイルス性肝炎を正しく知ましょう

ウイルス性の肝炎は、日本で最も多い感染症といわれており、治療せずに放置していると、肝硬変や肝がんなどの重篤な病気を引き起こす危険性が高まります。

肝炎ウイルス検査を受けたことがない人は、ぜひ一度受けるようにしましょう。

症例が最も多いウイルス性肝炎

肝炎とは肝臓に炎症が起こり、疲労や倦怠感、発熱や吐き気などの症状が現れることのある疾患です。アルコールや薬物が原因で起きることもありますが、最も多いのが、ウイルスの感染が原因となって発症するウイルス性肝炎です。

ウイルス性肝炎の種類

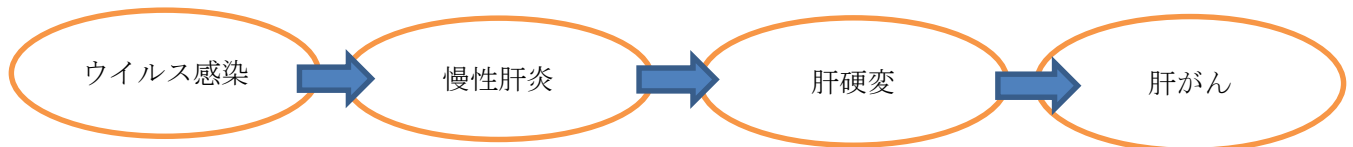
ウイルス性肝炎にはA～E型までの5種類がありますが、日本国内でとくに患者数が多いのがB型肝炎とC型肝炎で、それぞれ次のような特徴があります。

【B型肝炎】 感染している人の血液や体液を介して感染します。主な感染経路は母子感染ですが、昭和61年以降に感染防止策がとられています。成人後、性交渉で感染するケースが増えています。ワクチンの接種により、予防することが可能です。

【C型肝炎】 輸血や血液製剤によって感染するケースが多かったのですが、平成4年以降ウイルス検査が導入され、輸血による感染はほとんどなくなりました。性交渉による感染はまれですが、注射の回し打ちや、入れ墨・ピアスなどの不衛生な処置により感染するケースがあります。

肝硬変や肝がんの大きな原因に…

肝炎ウイルスに感染したまま、治療せずに放置しておくことや、肝硬変や肝がんを発症する危険性が非常に高くなります。日本人がかかる肝がんのおよそ8割がC型肝炎、残りの大半はB型肝炎が原因といわれています。



肝炎ウイルス検査を受けることが大切

ウイルス性肝炎は自分でも知らないうちに感染し、自覚症状もほとんどないまま進行するケースが少なくありません。感染しているかどうかは検査をしないとわからないので、今までに一度も検査を受けたことがない人は、肝炎ウイルス検査を受けて、感染の有無を確かめておくことが大切です。

特にウイルス検査を受けたほうがよい人			
生まれが昭和60年（1985年）以前である	平成4年（1992年）以前に手術や輸血を受けた	長期に血液透析を受けている	妊娠・出産時に多量の出血をした
健康診断で「肝機能」の数値が基準値を超えていた	平成6年（1994年）以前にフィブリノゲン製剤を投与されたことがある	注射の回し打ちの経験がある	入れ墨やピアスをしている

